

2023 年春季 第 56 回実用イタリア語検定 IBT アンケート結果

昨春に続き、2 回目となるオンライン試験でした。試験期間は 3 月 12 日から 19 日までの 8 日間とし、ご都合の良い時間帯に受験していただきました。

まず初めに、初日の試験開始時にシステム障害が発生したため、数時間受験していただけなかったことを深くお詫びいたします。今後同様の事態が再発することの無いよう、システムの充実と人的対応能力の向上をお約束いたします。

また、オンラインとしたことにより、インターネットやパソコンをご利用になれない方々、およびオンライン試験自体を否定される方々から受験機会を奪うことになってしまったのは心苦しい限りですが、存続の危機から脱し、借入金返済するためには、巨額の会場使用料や運営費を削減して運営の健全化を図る必要がございます。どうかご理解ください。

試験後、公式サイトでアンケートを募集しましたので、その結果をここにご報告いたします。

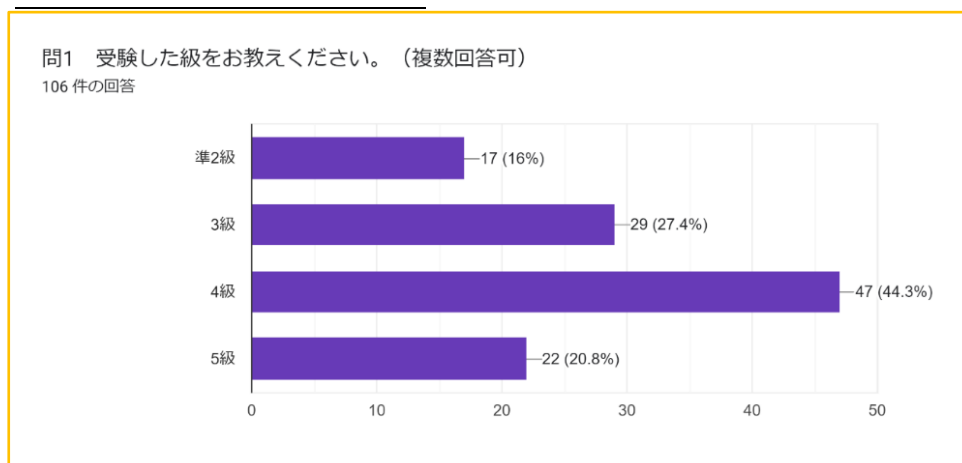
アンケート内容

- 問1 受験した級をお教えてください。
- 問2 今回受験した場所（都市名）をお教えてください。
- 問3 秋季も含め、初めて伊検を受けた方へ：当検定を何で知りましたか？
- 問4 パソコンや通信回線に問題なく、スムーズに受験できましたか。
- 問5 パソコンなどの操作は容易でしたか。
- 問6 Windows 以外の端末を利用しましたか。
- 問7 HP や試験開始前に掲示されていた注意事項は、わかりやすかったですか？
- 問8 昨年の第 54 回（2022 年春季 IBT）を受験された方へ：試験画面の表示や操作方法は改善されたと思いますか。
- 問9 会場で受ける紙の試験と比べて、受験しやすかった分野、受験しにくかった分野などがあればお教えてください。
- 問10 カンニングなどの不正行為はどの程度あったとお考えですか。
- 問11 オンライン試験は、検定試験としての信頼性が損なわれるとお考えですか。
- 問12 将来もオンラインで実施されるなら、受験しようと思いますか。
- 問13 その他、ご感想やご希望があったらお書きください。

106 名の方から回答が寄せられました。そもそもオンライン試験を否定なさる方は受験されなかったでしょうから、肯定的なご意見のほうが多かったのは当然ですが、ご批判は真摯に受け止め、皆様のご意見を次回の運営や画面表示、事前のマニュアルの改善などに可能な限り活かしていきたいと思っています。

大量の内容となりますが、貴重なご意見の大部分をそのまま、以下にご紹介いたします。なお、“➡青字”で記載した部分は事務局からの回答です。

問 1 受験した級をお教えてください。



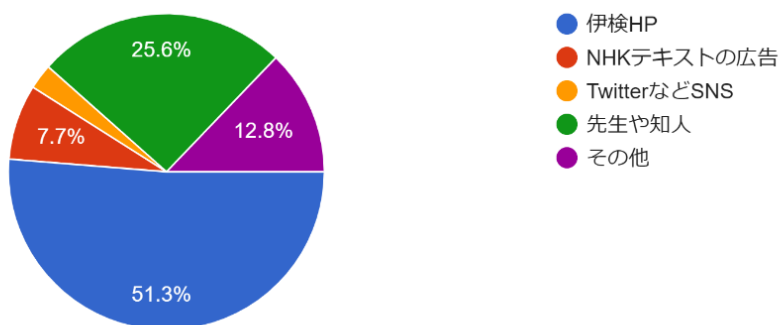
問2 今回受験した場所（都市名）をお教えてください。

回答が非常に多岐にわたるため、ここに詳細を記載するのは控えさせていただきますが、「これは会場にお越しいただくのは大変 or 無理だ」と思われる方々が目立ちました。また、海外受験者が 7.4%と、従来の会場試験の 2 倍にもなったことを見ても、オンライン開催の意義を実感しました。

問3 秋季も含め、初めて伊検を受けた方へ：当検定を何で知りましたか？

問3 秋季も含め、初めて伊検を受けた方へ：当検定を何で知りましたか？

78 件の回答

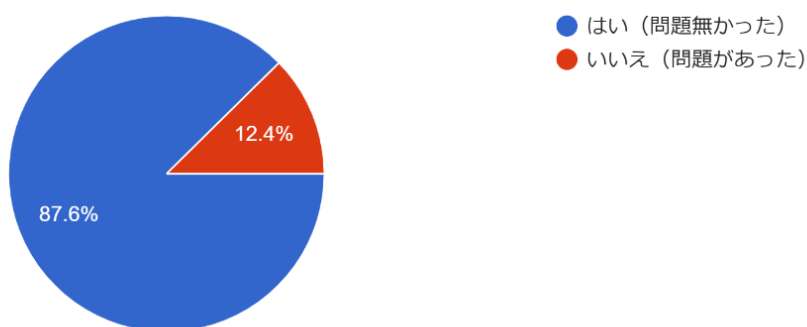


「口コミ」の力を改めて実感したとともに、オンライン・イベントについては、媒体資料の効果が予想外に低いことが分かりました。今後の広宣予算を見直す必要があるかも知れません。

問4 パソコンや通信回線に問題なく、スムーズに受験できましたか。

問4 パソコンや通信回線に問題なく、スムーズに受験できましたか。

105 件の回答

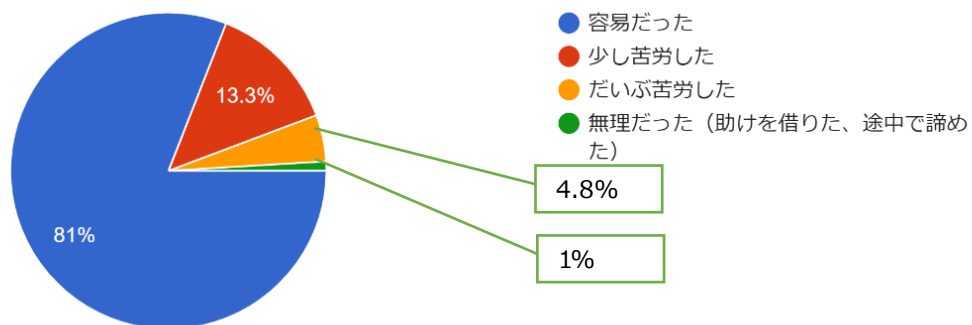


概ね問題なく受験いただけたようですが、「問題があった」という回答が去年の倍以上ありました。初日のシステム障害が不安を招いてしまったものと思われ、大いに反省しております。

問5 パソコンなどの操作は容易でしたか。

問5 パソコンなどの操作は容易でしたか。

105 件の回答

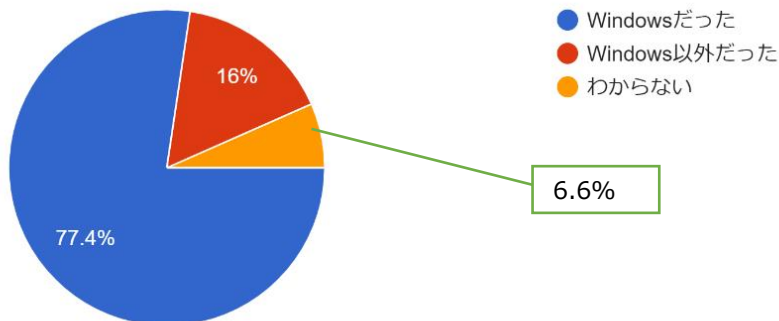


苦労された方は前回より 7%ほど減少しましたが、依然として相当数いらっしゃいます。表示サイズの変更方法や画面の操作方法について、詳しいマニュアルを HP に掲載しておりますので、事前にインターネットへの接続方法やブラウザ、マウスなどの基本的操作方法を習得しておいていただくと嬉しいです。

問6 Windows 以外の端末を利用しましたか。

問6 Windows以外の端末を利用しましたか。

106 件の回答

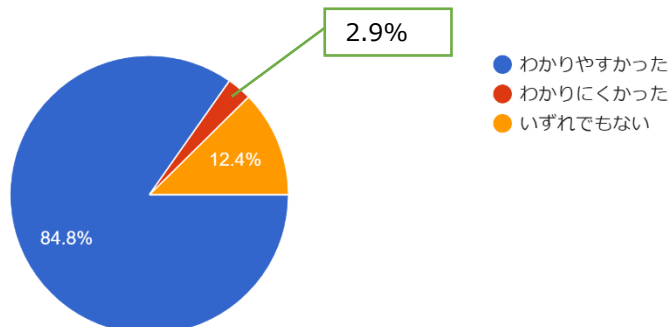


Windows 以外の端末は自己責任でのご利用をお願いしておりましたが、16%を越えていました。皆さん順調に受験できたことを祈っております。

問7 HP や試験開始前に掲示されていた注意事項は、わかりやすかったですか？

問7 HPや試験開始前に掲示されていた注意事項は、わかりやすかったですか？

105 件の回答



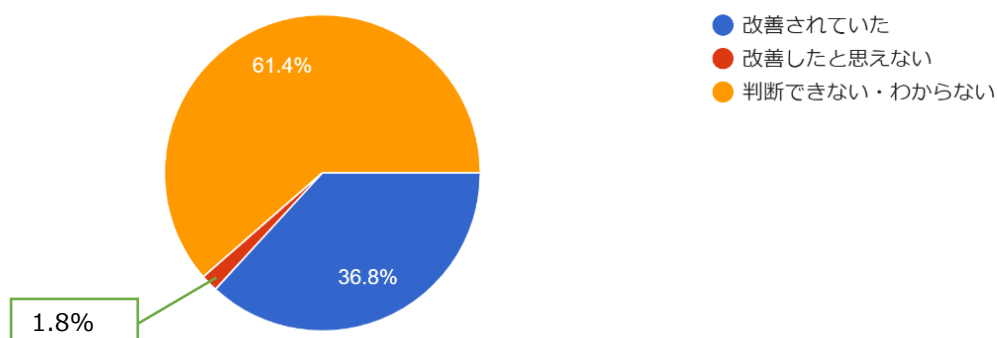
「わかりやすかった」という回答が圧倒的に多かったことに胸を撫でおろしています。ただ、様々なお問い合わせに対応して内容の増築を繰り返してきたため、掲載方法や構成を見直す必要があると考えております。

問8 昨年の第54回（2022年春季IBT）を受験された方へ：試験画面の表示や操作方法は改善されたと思いますか。

問8

昨年の第54回（2022年春季IBT）を受験された...験画面の表示や操作方法は改善されたと思いますか。

57件の回答



1年前のことですので、比較が難しかったのは当然かと思います。今回、イラストの大きさや画面構成を改良したつもりですが、一定のご評価はいただけたものと理解しております。

問9 会場で受ける紙の試験と比べて、受験しやすかった分野、受験しにくかった分野などがあればお教えてください。

問題文があって下の行に選択肢という形式に慣れていたもので、左に問題文、右に選択肢という構成に目と頭が慣れるまで時間がかかりました。しかし、一度受験したら今後のトレーニングでなんとかなることなので、システムの問題というよりは自身で解決できることかなと思います。これは全体にも言えることですが、受験者側が出題形式に合わせていくしかないかと思います。イラストも文章も見やすかったですし、紙と比べてやりにくいなどの問題はなかったかと思います。

➡ 前回「選択肢が問題文の下にあたり右にあたりしたので見にくかった」というご意見が1件ですけれどもありましたので、今回は選択肢を右のウィンドウに集約しました。このほうがスクロール頻度を下げられることもあります。今後もこの構成で行こうと思います。建設的で実現可能なご意見はどんどん取り入れて改善いたします。

オンライン試験をしていただき、ありがとうございました。

事前に試験のデモ画面で確認し、また、昨年受験した方々のアンケートを読んでおきましたので、問題はありませんでした。デモ画面でリスニングに時間制限があり、時間がくると解答できないことがわかり、助かりました。デモ画面を見ていなければ、確実に1問目は無回答になるところでした。紙の試験との比較として、感じたことを書きます。

●環境

移動が要らないことは大きな利点です。感染症の心配、時間的制約、費用面など、すべてにおいて助かりました。

現在は東京に住んでいますが、将来は都会を離れて田舎に住むかもしれません。オンライン試験は、たくさんの方々にチャンスを与えていると思います。また、自宅での受験は、室温を最適なものにできる点で大変助かりました。

体質の関係で暑さに弱く、冬はきつい暖房、夏は「寒い」という人に合わせた弱い冷房で、集中力を欠きがちなため、その心配がないのは私にとって素晴らしいことでした。

●受験しやすかった分野

リスニングはイヤホンをして自分に合わせた音量で聴けて、よかったと思います。筆記に関しては、「後で見直す」ボタンがよかったです。ただし、私の実力では時間が足りず、あまり見直せませんでした。作文の文字数が表示されるのは助かりました。

●受験しにくかった分野

作文画面でコピーペーストの機能が使えなくてあるため、2つの文章の順番を入れ替えたいと思っても、いったん消して打ち直すしかなかったことで、やや時間をロスしました。

➡ デモ試験は全員に試していただきたいのですが、デモ試験をはじめ、HPに掲載した注意事項などを読んでいらない方が多いのが残念です。もっと読みやすくして、見ていただけるよう改良を続けます。マンガやイラスト、動画にしないと見ていただけないでしょうか…。なお、不正対策のためコピー機能は無効にすべきであるという方針ですので、どうかご理解ください。

リスニングテストで2カ所。 1) 「次へ」を押したタイミングと自動で次のページに移行するのが重なってしまい、1問飛ばされたことになってしまった。 2) 「次へ」を押したのは一回のはずなのに、6問先が表示され、その間は聴くことも問題を見ることも出来なかった。
➡ 1)については、「次へ」ボタンを連続して2回押されませんでしたでしょうか。画面が切り替わった（次の画面のhtmlコードがブラウザに読み込まれた）直後にボタンが押されたことをブラウザが認識してしまうと、1画面飛ばされてしまうということが起こります。2)については、システムの設計上、発生することはありえません。ただ、主問題（主ウインドウに表示されます）に複数の副問題・選択肢（右ウインドウに縦に並んで表示されます）がある場合、最初の副問題に解答したあと、音声の再生途中で残り時間が表示されているのに「次へ」ボタンを押してしまうと次の画面（問題）に遷移します（なお、主問題にはN19-N22などと表示してあります）。例えば4級のN19に解答したあと、N20以下が表示されているのに「次へ」ボタンを押すとN23に飛んでしまいます。ただ「6問先」は考えられません。ありえないことではありますが、システムの不備によるものだとしたら重大な問題ですので、別途状況を詳しくお知らせいただければ調査いたします。
両分野、メモをとりながら回答したい。1画面でどの程度スクロールする必要があるか事前に確認できたら尚良い(画面パーセンテージの調整)
➡ 恐れ入りますが、事前に全ての画面を表示し、スクロールの必要度を判断していただけるシステムを構築するのは技術的にも予算的にも全く不可能です。仮に強制的に1画面に全問を表示したとして、果たして解読できるでしょうか。強制的にスクロールはごく基本的なPC操作です。HPでも方法をご説明しておりますが、スクロール頻度を下げるための画面縮小はコマ数秒で調整可能な操作ですので、どうかその方法を再度ご確認くださいませようお願いいたします。
作文は、文字数が自動カウントされる点はやり易かったです。 ただ、自分の不備ではありますが画面のスクロールをしなかった為6つの絵しか見ておらず、7～9の絵の存在に気付かず終了してしまい、残念でした。今後は問題文に「1～9の絵を見て」等ひと言添えて頂けますと有り難いです。
➡ ちょうど7以下のイラストが画面に表示されていなかったのですね。次回は「1～9のイラストを見て」などの文言を問題文に書くようにします。貴重なご意見有難うございました。
受験するタイミングや場所を期間中は任意に選択できるので集中できる環境で試験に臨めるのが最大の利点であると感じました。
どれも受験しやすかったです
リスニングはヘッドホンで確実に聞けるので会場より受験しやすいと思う。
オンライン受験は自宅で受けられて移動がなく、日程も自由に選べるので便利ですが、今回初めてで、紙の試験に慣れているので、不安もありました。
➡ 場所、時間、環境など、受験しやすく快適だったという趣旨のご意見を問9への50の回答中17件いただきました。ただ、画面操作に不慣れの方は敷居が高く感じられたことも事実として受け止めております。
一定の試験期間の中で自分の都合のつくタイミングに受験できるという点はありがたいです。ですがリスニング・筆記においても試験自体には取り組みにくかったと考えます。実会場で受験した場合と解答方法・環境に大きな相違があるからです。
筆記の長文問題が、受けにくかった。紙の時は文に直接、スラッシュを入れたり、単語を○で囲んだりして読んでいたので。内容や文章の長さも会場の問題形式とまったく違うと感じました。
➡ モニター画面での問題閲覧・解答ですので、紙試験とは全く異なるということを予めご承知おきください。HPにはデモ試験もご用意していますし、前回の試験画面も全て公開していますので、これから受験を検討されている方は、ぜひ是非事前にご覧いただき、ご了解の上でお申し込みいただければ幸いです。
作文の文字を打つのに苦労した。
作文が受験しにくかった
リスニングはイヤホンから聞き取れ集中出来た。その反面 筆記はかなり苦労した。隣のボタンに指が触れてしまいうまく操作できず 時間切れが心配でした。作文は実力出し切れなかった気がします。
➡ スマホのタッチパネル入力が主流になった今日、キーボードからの入力は苦手だという方も多いようです。作文に苦労された、というコメントは「作文解答が快適だった」というご意見と全く同数でした。
作文は文字数が出るし、後で作文の途中に入れられるので便利でした。会場での場合は後で作った文章を途中で挿入したいとき後ろに続く部分を消しゴムで消してずらすなければならぬので。
作文問題が回答しやすかった
メリット 地方在住者にとって受験機会の格差をほぼゼロにしてくれた。時間金銭労力の軽減。感染不安、天候災害を回避できる（居住地を問わず）。昨年アンケートにもあったがリスニング環境を自分用に最適に設定できる。（高齢者にはありがたい）同じ室温などの環境も。受験者がお互い咳、くしゃみなどで干渉しあうことがない。なかんずく作文の快適性はだれにとってもIT技術のメリットです。かりにも「実用」を標榜する検定で紙に手書きでの解答を親和性が高いと主張する方がいらしゃれば根拠を拝聴したい。
読解（長文）問題の扱い辛さは昨年と比べ改善された。もう問題はない。 特に機器トラブルはなかったが 不安であることは確か。リスニングから自動で引き続き筆記へ移行する方が事故は少ないと思うが。
➡ キーボードに慣れている方は、作文入力は快適だと思われるでしょう。乗り越えられないシステム設計技術上の課題があるため、現在開発・運用を委託している会社の場合、リスニングと筆記を全く異なるシステムで走らせないと試験が完結しません。そのため、リスニングから自動で筆記に移行することが不可能なのです。ご理解くださいますようお願いいたします。
長文読解問題は、文章をなぞったり、マークしたりがオンラインでは出来ないで不利。一方、オンラインではマークシートへの記載時間が無いので有利、と感じた。
リスニングは、IBTの方が受験しやすかったです。音が聞こえやすいからです。他方で、リーディングは書き込みができないので、紙の試験の方が適していると思いました。
見直しマークのおかげで解答もれを容易に見つけられたのはよかった。紙のほうが線を引けると、馴染みがあるので、やっぱり快適に受験できる。
どの分野も、紙の試験のようにメモできないことが不便だったのでメモ用紙を手元に置いて受験しました。
➡ 紙試験より「有利か」「不利か」という点については、それぞれ一長一短がありますし、受け止め方にも個人差があるでしょう。ただ、オンライン、紙試験、いずれもその開催回ごとに同一条件で受験した方の成績を分析しての合否判定ですので、どちらが合格しやすい、合格しにくい、ということとは無いかと思われます(PCへの慣れは別としてですが)。画面表示である以上、問題冊子に書き込みできない、という件はどうしようもありません。ご理解ください。なお、端末環境に依存しますが、問題画面と重ねて「メモ帳」を開いておき、適宜メモを書くという裏技もありますが、書き込む余裕があるかどうかは課題ですね。

オンラインは移動の必要もなく、受験可能期間も長いので自分の都合に合わせて受験でき、総じてとても助かりました。 受験しにくかった分野としては、リスニングパートで、前に戻って（もう一度聞けなくてよいのですが）解答の選択肢を変更したいときに戻れないのは会場受験と違うところかなと思いました。オンライン、会場、それぞれの良さがあるのでは仕方ないかとも思います。
リスニングは実会場より聞きやすいが、設定時間後の回答ができない
筆記は前のページに戻れるけれど、リスニングは前に戻れないことが不便だった。
リスニングの回答を修正できない点が、デメリットであると感じた。他は、特に問題はなかった。
ヒアリングの時間切れが辛い。考えているうちに次のページにへ行ってしまった。再度聴けなくても戻れるようにして欲しい。(もちろん総時間は減って構わない)
紙の試験の場合は容易に前の問題・回答に戻れるが、オンライン試験では消えてしまうため不利になる。何らかの形で、振り返りができるようにならないか。
見直しがしづらい一方、ライティングは入力できるので楽。
➡ 前回と同様「リスニングの見直しができなかった。戻れなかった。」というご意見・不満が目立ちました。残念ですが現在のウェブ技術では、戻って見直す機能を搭載することは不可能です。以下、少々長くなりますが詳しくご説明します： 1. ウェブ・サイトの構築にはHTML5およびHTML Living Standardという言語体系が世界的に適用されており、当検定の試験画面もそれに準拠して作られています。これらに定義された言語では、音声や動画などのコンテンツは、それが埋め込まれたページを開くたびにデータが読み込まれる仕様となっています（再生開始に遅延時間を設定することは可能です）。 2. 当検定の場合は、リスニングの総時間が紙試験でのCD再生時間とほぼ同じ（オンラインのほうが少々長くなるよう設定していますが）になるよう、各設問に時間制限を設け、その時間内に解答していただくことにしています。また、データ読み込み時間を確保するため、各設問にアクセスして3秒後に自動的に再生開始するようにしています。 3. 「再生開始ボタンを設ければ良いではないか」というご意見があるかと思います。確かに開始ボタンを押すことで音声・動画をスタートできるようにすることは可能ですが、以下の理由から受験者が任意の時間にスタートさせる機能を実装するわけにはいきません。 ・理由その1：「試験」という性格上、「所定の時間内に解答していただく」ことを条件にせざるをえません。 ・理由その2：「再生開始」ボタンを押さないと音声はスタートなくなります。注意書きを読んでいなかったで、押さなくてはいけないことを知らなかった、押すのを忘れた、押すのが遅れた、何らかの事情で放置した。このような場合、各設問に設定した制限時間が経過すると自動的に次の設問に遷移します。結果として「解答しないうちに次の問題に移ってしまった。システム不良だ。点数を損した。受験料を返金しろ。」という対応できないクレームが嵐のように事務局に寄せられることになるのは明らかです。 ・理由その3：「2回目以降は再生ボタンを押してはいけません」という注意書・指示を書いたとして、果たして守っていただけるのでしょうか？ 4. 「戻る」や「見直す」機能を実装すると、上記のように再度自動的に音声は再生されてしまい、紙試験に対して許容できない不公平が生じます。 5. 仮に「戻る」や「見直す」機能を可能にして見直し+聞き直しを可能とした場合、リスニング全体に設定した時間内に全問解答することはできなくなるでしょう。結果として「納得できる解答ができないまま終了した、どうしてくれるんだ、金を返せ」という苦情が殺到することになります。対応できません。 6. 残念ながら、現在のウェブ技術では「2回目以降は再生しないようにする」という配信プログラムを開発することは限りなく不可能に近い話です。仮にそのような（各種環境で安定に動作する）制御プログラムの組み込みが可能だとしても、当検定の年間予算を遥かに超える開発費が必要なので実現できません。年間予算200、400億を超える大型検定のように数億円、いや十億を遥かに超える開発費を投じて専用システムを作ることとは不可能です。力不足を実感しております。ご理解ください。 7. 「全設問の音声を一ファイルにして最初から最後まで通して再生しつつ解答できるようにすれば良いではないか」というご提案が出るかも知れませんが、実現するには現在使用している試験の配信システムを根本的に作り直す必要があります。また、通信回線や端末の動作が一時的に不安定になって中断する可能性が高まり、結果として大クレームになります。従ってこの手法は採用できません。 8. いっそのこと、リスニング試験は何度でも戻って聞き直し、修正できるようにするとともに、時間制限も撤廃して何時間でも、1週間でも取り組んでいたようにすれば皆さんにご納得いただけるでしょうか。そのような試験が検定試験と呼べるかどうかは疑問ですが、多くの方々から寄せられたご要望を満たすとなると、そのような形態の試験となります。ご希望が圧倒的多数であれば、そのようにいたします。 以上を総合すると、制限時間内にその場で解答することが求められるオンライン試験のほうが、紙試験より集中力と実力が試されるのではないかと思います。
リスニングについて。紙の試験だと、前の問題が早く終わった場合、次の設問が読めますが、オンラインの場合は、一問ずつ表示のため、設問の前読みが全く出来ませんでした。リスニング力の不足につきるとは思いますが、公開されている過去問やeラーニングでは、次の設問の前読みが出来るので、そのスタイルで半年間準備してきました。試験途中で棄権したくなりました。
リスニングはページの移動が強制的なので、先に選択肢の文章をゆっくり確認することが出来なかった点が少しやりにくかったです。
試験の全体を見るのができないので 少し不利かなと思いました
一つのページに複数の問題が載っていないので、問題間の移動が手間に感じた。
➡ オンラインでの画面表示は「一覧性」という点で印刷物（特に地図に代表される情報）に逆立ちしても及びません。逐次出題のため“先読み”もできません。こうした、紙試験との本質的な違いを大前提としてご了解いただき、出題形式に慣れていただければ幸いです。一つのページに複数の問題を掲載すると、皆さんが大嫌いな「スクロール」が必要となりますので、今後も1画面1問題という構成は続けさせていただきます。それとも、リスニングや筆記の“全問題”をスクロールしなくても見えるほど極度に縮小して1画面に表示し、最初に数分間お見せするか、その縮小画面を見ながら解答していただければ喜んでいただけますでしょうか（画面の解像度が追いつかないため、全く読めないと思いますが）。試験の全体を見るにはそれしか方法はありませんし、別途莫大な開発費が発生します。
今回自宅受験だったのですが、会場受験の方がより緊張感を持って行うことができたなと思いました。
会場の方が集中出来たと思います。
➡ 会場ならではの緊張感は主催者として十分理解しておりますし、厳正さが求められる検定試験においては、会場試験のほうがあらゆる面で好ましいことも理解しております。その一方「オンラインでもとても緊張感があった」という声も幾つも頂戴しています。オンライン化することで会場使用料や運営費、印刷費、書類作成、発送などの莫大なコストを削減しない限り存続は見込めない、という事情をご賢察くださいますようお願いいたします。

作文の文字数カウントが自動で行われるため、文字数・単語数をカウントする手間が省けて便利。いくつかの問題で、スクロールしないとリスニング問題の選択肢が全て見られないのはやや不便。

ヒヤリングの選択肢（絵）が大きくて画面を少々上下に動かさないと全体を見られない事。音は他の音の影響を受けずにクリアに聞けるので大きな会場より安心出来ます。

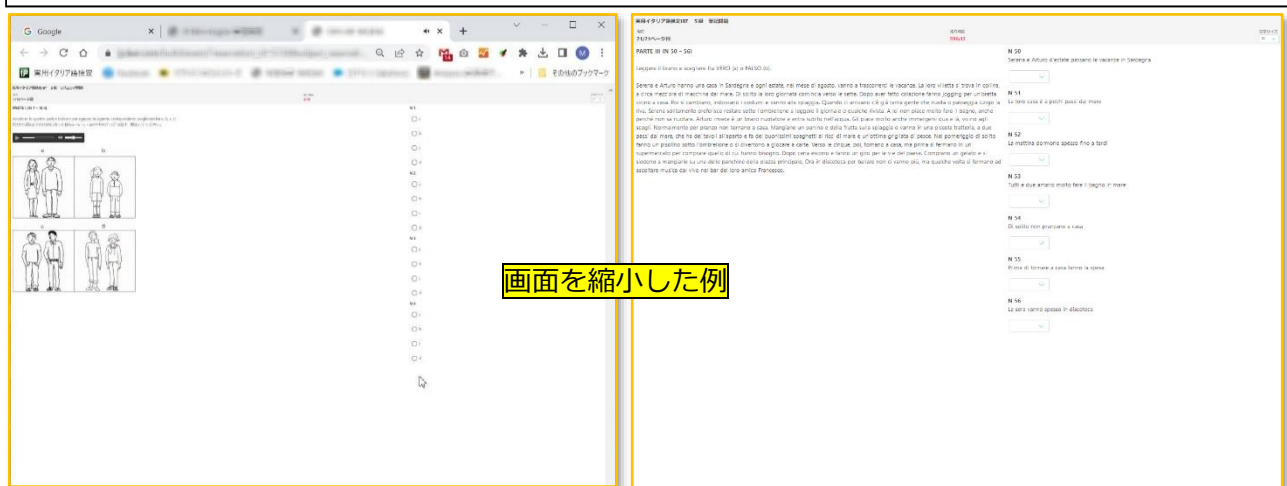
リスニングの画面が見にくい。全体をスクロールしないと見えないので集中出来ない。ページを一度にめくれないのが手間暇だ。

リスニングは集中できた(聴力低下のため)。大きな教室より聞き取れた 反面 作文 読解 文法は 紙の試験と違い 画面が光り 質問によってはスクロールしながら 読み とても受験しにくかった。今回はシステム障害が発生して最初からとても不安だった。

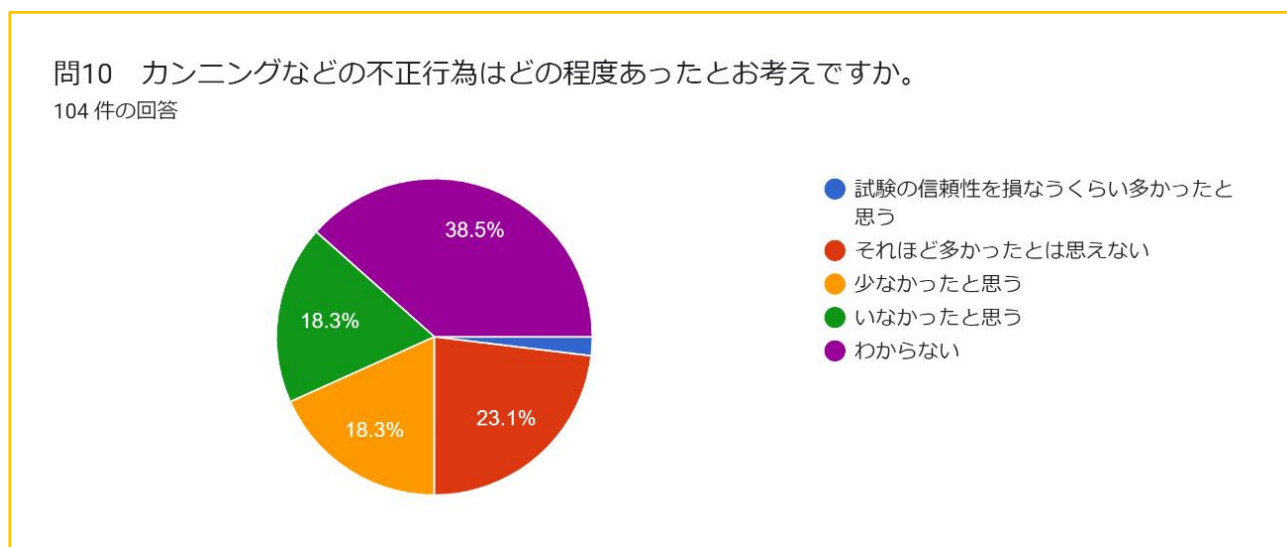
複数のイラストや解答の選択肢がある場合、全部が一画面で見られなかったこと。

➡ 前回と同様「スクロールが面倒だった」という意見が目につきました。1秒もかからない操作なのですが、皆さん本当にスクロール操作が嫌いのようです。普段、各種ウェブサイトを開覧するときは、スクロールしないでページの上部だけ見て過ごしているのだと思います。今回は前回よりイラストを小さくしたり、画面構成を変更して、できるだけスクロール頻度を減らすようにしたのですが、試験問題の構成上、どうしてもスクロール必要な画面もありました。今後は全部を一画面で見られるように、イラストを半分以上のサイズにいたしましょうか。結果として「見えなかった。画面を拡大する方法が分からなかった。拡大するのが面倒だった。」というクレームが多数寄せられるでしょうけれど、スクロールを無くすにはその方法しかありません。スクロールしなくても全部見えるように画面を縮小する方法を昨年の夏からHPにご説明しておりましたが（下記の例です）ご覧にならなかった方が多かったようです。スクロールのやり方についても、改めてHPにマニュアルを追記いたします。読んでいただけることを期待しております。

「行間を狭めれば全部一画面に収まるだろう」という意見が出るかと思いますが。当検定の受験システムは他の数十の検定が使用しているものに少々手を加えて利用していますが、文字サイズや行間隔などはデフォルトで決められており、当検定用に変更することは予算的に全く不可能です。ご了承ください。



問10 カンニングなどの不正行為はどの程度あったとお考えですか。

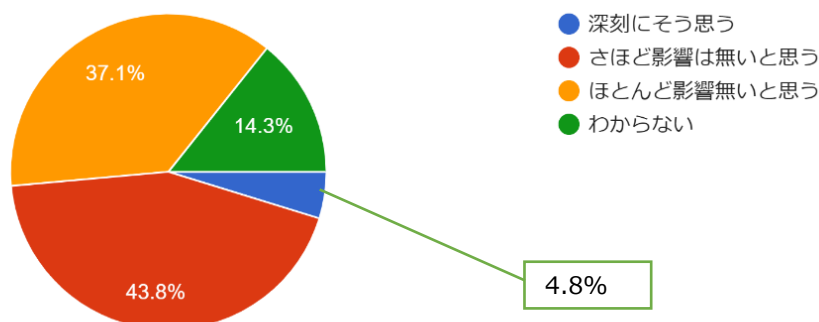


オンライン試験の存在意義は皆さんの相互信頼に掛かっています。検定協会としては、この回答結果には敢えてコメントを控えていただき、皆さんのご判断に委ねたいと思います。

問11 オンライン試験は、検定試験としての信頼性が損なわれるとお考えですか。

問11 オンライン試験は、検定試験としての信頼性が損なわれるとお考えですか。

105 件の回答

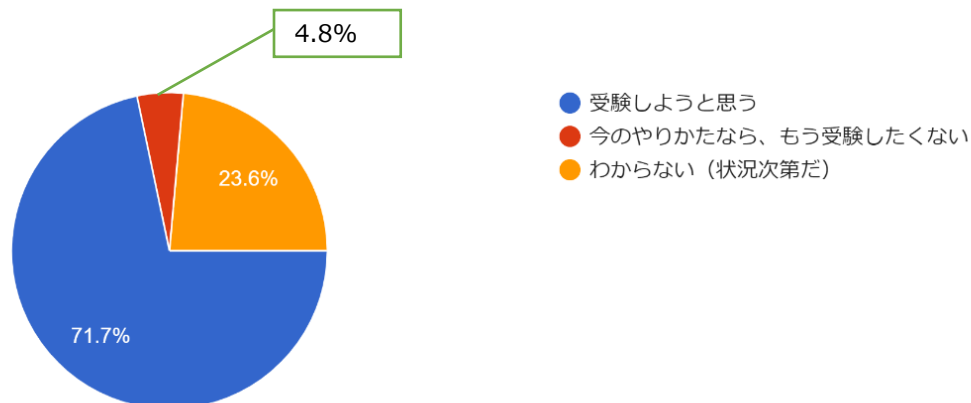


「影響無いと思う」との回答が 80.9%に上ったことに少々安心してはおりますが、「否定派」の皆さんのほとんどは受験なさっていないと思われるので、この結果は個人の判断に委ねさせていただくしか無いのかも知れません。

問12 将来もオンラインで実施されるなら、受験しようと思いますか。

問12 将来もオンラインで実施されるなら、受験しようと思いますか。

106 件の回答



権威・信頼性と快適さ・利便性をどのように評価されるかは、受験者の皆さんにお任せするしかありません。受験者増加に繋がる広報活動を強化しない限り、先細り傾向から脱却できず、根本的な決断を迫られる日が来ることも視野に入れつつ、日々運営してまいります。

問13 その他、ご感想やご希望があったらお書きください。

やはり緊張感が得られる会場で受けたい。試験結果は、メールで欲しいと思う。

➡ お申し込み時に「メールを希望しない」にチェックを入れている方が多いです。また、オンライン受験なさった方は問題無くマイページで結果を閲覧していただけるであろうとの判断から、メールでの結果通知は当面考えておりませんのでご了承ください。

できれば会場であるのが望ましいと思います。コンピュータトラブルの時、頼る術がないのが精神的にも不安定にさせると思います。

できれば会場受験したいと思いますが、田舎に住んでいて子どももあり、なかなか会場受験が難しいので、秋もIBTがあると嬉しいと思いました。でも私個人的なことですが、会場受験での緊張感も味わってみたいと思いましたので会場数が増えたとありがたいです。

➡ 会場には会場なりの緊張した空気がありますからね。「やはり会場試験のほうが良い」という趣旨のご意見が44件中4件ありました。残念ですが、会場とIBTを同時開催する人的・資金的な余裕がありません。試験問題も2セット用意する必要があります。会場も増やせると良いのですが、ほとんどの地方会場は大赤字の運営ですので、増設は難しいのが現状です。「できない、無理」という回答ばかりで申し訳ありません！

オンライン受験による不正行為は全くないとは言えないと思います。もしそのような行いをする受験者が多く、オンライン受験が廃止になってしまう事があれば残念です。会場に行かず検定を受けられた事はとても良かったです。イヤホンで音声が聞けたのはかなり集中できました。出かける労力がない事もやはり集中力に繋がりました。無駄な疲労感もないです。 問題用紙に直接書き込みが出来ないのは少し困りました。オンラインならではの受験対策は必要だと感じています。iPadでも受験出来たら嬉しいです。試験終了後の早い段階で、自身の解答が確認出来たり試験問題を閲覧できるのは復習にとっても役立っています。コンビニで購入出来る過去問題の解答も詳しい説明があり分かりやすいです。 この一年、独学でイタリア語を勉強してきました。これからも楽しく続けてもっとイタリアやヨーロッパの事を知れたらいいなと思います。ありがとうございます。 昨年の春に続きオンラインで受験しました。ありがとうございました。実会場で受験した事がないので、比べる事は出来ませんが、とにかく一番近い会場までの移動時間が我が家からは遠く、確実に片道3時間は超えます。なので、これからも大変かと思いますが、何年かに一度でもいいので、オンライン受験を実施してくださると、嬉しいです。 地方住まいということもあり、私は独学なのですが、検定が良いモチベーションになり、勉強が続けられています。前回に続けてですが、オンラインでの実施がとてもありがたいです。 オンライン受験の長所を活かし、より多くの受験者を集め、協会を盛り上げていって下さい。応援しています。 試験期間が1週間程度あり、また24時間受けられるため、自分の都合を調整して受ける事ができる方法だと思います。会場での試験の場合、日にちや時間が合わない検定を受けられないため「まあ、止めるか」と思ってしまう。ぜひ、今の方法を続けて欲しいです。 田舎のサービス業勤務の為、会場試験の場合は都市部まで休んで受験に行かないといけないので、会場試験は受験困難です IBTに批判的な方がいらっしゃるのには解からないわけではないが、根本問題として以下の3類型を混同しているのではないかと。①資格試験、②競争試験、③検定を混同している。①は合格することで特定の業務に従事できるようになる。②は得点上位者から順に合格者を決める。伊検などは③の類。他人と競争しているわけでも、特定の業務、職業を保証するものではない。ワイン検定とソムリエ試験の違いと同じ。前者でたとえ満点を取ってもソムリエの仕事を保証するわけではない。誤解している方々には3者の差異を丁寧に説明して差し上げることにより、批判や不正の防止にもなると思われる。別欄で回答したが、地方在住者にとって多大なるメリットのあるIBTへ大都市圏の論理と感情で批判する方々には協会側からも丁寧に説明してご理解と了承を促すようお願いしたい。 昨秋、〇〇語検定と同じIBTの本格実施前の無料試行版を受験したのだが、リスニングから筆記へ遷移しようとしたら画面真っ白で続行できずということがあった。伊検は2回受験したがトラブルはなかった。改めてトラブルのないシステムの構築は膨大な労力がかけられるのだろうと感じた。当方もPC扱いに習熟しているわけではないのでいつも不安である。伊検ではシステム構築を専門業者へ委託し万全を期しているようで頭が下がる。会場実施とは別の意味で気遣いと労力が使われていると感じる。ぜひIBTの継続を熱望する（少なくとも私が準2に合格するまで）と同時に、他言語でも採用が広がるよう共同で研究をさらに進めていく動きが出てくることを期待したい。他言語での普及が進まないことで、世間の認知度も遅れ、誤解や批判を招くのではないかと憂慮する。 ➡ 貴重なご意見有難うございます。当検定は極限まで小規模で小回りの効く体制で運営していますので、オンライン化といった思い切った施策も実行できました。「お仲間」が増えることを期待したいのですが、オンライン化することで失うものも多いため、他検定の皆さんは躊躇なさっているのではないのでしょうか。今後の進展に期待するところです。 このほか「オンラインで良かった。これからも続けて欲しい。地方在住なので会場には行けない。」という趣旨のご意見が44回答中27件ありました。 作文を打つ時間と紙に書く時間があるのでもう少し時間を伸ばして欲しい。 ➡ ご提出いただいた作文は、試験期間終了後にマイページから閲覧できますので、紙に書いて記録していただく必要はございません。 IBT受験の場合、即座に可否判定を出してほしい。4/5級程度なら、受験後すぐに結果が出せるはず。 ➡ 当検定では、合格点を前もって決めていません。全級・全員の得点傾向を把握してから慎重に合格基準点を決めています。そのため、作文の採点結果をシステムに登録し、得点分布などを分析してから全級の可否を判定しておりますので可否判定まで日数をいただいています。ご了解ください。 今回IBTで自宅受験をしたのですが、リスニングの解答を選択肢を時間内に確認をしていた際、急に画面が変わって次の問題に行ってしまうことがありました。解答を確認したところ、解答が正解していたところなのに無答となっていて、ショックでした。 作文の入力中に突然画面が試験開始時点まで戻ってしまい（どこかのキーにタッチしてしまった？）試験強制終了したのかと青ざめました。筆記試験を開始するをエンターしたところ、入力済みのものがそのまま残っていたので、続けることが出来ましたがかなり動揺しました。作文の自動文字数カウントはとてありがたいです。 ➡ 解答を選択（クリック）していた場合は、ページが遷移すると解答がシステムに送られる仕様となっています。原因は分かりませんが、何らかの原因（マウスの誤操作か誤動作かは不明ですが）で選択肢をクリックする前に「次へ」ボタンが反応してしまったのでしょうか。同種のご意見はこれが初めてですが、今後の参考とさせていただきます。 マウス（特にワイヤレスのもの）は全く予期しない操作（動きやクリック）をすることがあります。また、タッチパッドやタッチパネル式モニターは想定外の反応・誤動作をしてしまうことが多々あります。意図しない箇所をクリックされたりブラウザが閉じたりすることもあります。次回の注意事項には有線マウスの使用をお薦めする文言を追記いたします。 リスニングで聞いている途中で指がPCに当たってしまい回答する前にその問題が終わって次の問題になってしまいました。最後に戻って入力したかったのですが、戻れませんでした。筆記問題のように最後に入力できるように解答用紙が一覧できるようにしてほしいです。私の理解が足りずできなかっただけでしたら、失礼の段はご容赦ください。 ➡ 申し訳ありませんが、リスニングに「戻る」「見直す」機能を実装することはできません。「問9」の回答に詳しくご説明しておりますので、どうぞ一読ください。 オンラインテスト試験では合格 不合格 と定義せずトエックの様に 点数のみで受験結果を出した方が懸念される不正行為が無くなると思う。秋に行われる 会場試験の前哨戦の模擬試験のつもりで受験し 自身の実力を知る ずっとこの方が スキリ受験できる春のテストに受かって心からの晴れやかな喜びになれない ➡ 点数のみお知らせするようになれば不正は無くなるでしょうか。また、可否の結果が出ない場合、受験者の皆さんに達成感はあるでしょうか。模擬試験感覚で達成感を得ていただけるのであれば、eラーニングなど過去問題に正面から向き合っていれば良いのではないかと思います。
--

オンライン受験でコスト減となっているので合格証書が有料なのが納得できない。会場受験と同じように無料で発行するべきだと思う。発行されないのであれば事前にもっと知らせるべきであると思う。
➡ 受験者数が激減しています（他の第二外国語も同じ傾向とお見受けします）。「それはそっちの問題だろう」と言われれば「その通りです」とお答えするしかありません。現実問題として、長年続いてきた赤字決算を脱却し、（当協会の規模にとっては）巨額の借入金を返済するために、一層のコスト削減に努める必要があります。従来無償でお送りしていた「合格認定証」は、郵送しないまでもダウンロードできるようにしたかったのですが、以下の理由で実現できませんでした。 1. 合格認定証はイタリア語表記ですので、氏名もローマ字表記にしなくてはなりません。当検定が利用している受験システムのデータベースにはローマ字の氏名を記録するフィールドがありません。従って、受験申込時にも登録氏名にローマ字入力項目はありません。 2. 伊検の受験システムは、他の数十のオンライン検定にも適用されているものに少々手を加えて使用しています。データベースは共通の構造です。システム全体の制御プログラムを根本的に作り直す必要があるため、当検定のためにローマ字の氏名項目を追加して貰うことは絶対にできません。 3. 専用データベースと専用の運用システムの構築には、当協会の数年分の年間予算を注ぎ込んでも足りないでしょう。年間受験者数が数百万人いる大型検定と同様の対応は現実問題として不可能です。 4. 仮に専用システムを作り上げることが可能であったとしても、また、日本語表記で氏名を表記したとしても、認定証の印字・表示データを作成するには新たなプログラムを開発した上で、書類作成処理に多大な工数＝費用が発生し、採算が取れません。 以上、「あれもこれもできない」という回答で心苦しく思いますし、ご納得にはほど遠いかとは存じますが、システム立ち上げ時に既に検討した結果をご説明させていただきました。 なお、合格認定証が発行されないことについては、受験案内のページなどに"2021年10月から"明記しておりました。 「もっと目立つように記載しろ」というご批判もあるかと思いますが、大事だと感じられることは個人個人様々に異なります。一つ一つのご要望や質問に応え、それらの事項を網羅的に、目立つよう記載すると、全文面が強調表現で表示されることになります。結果として、どの項目も目立たないことになり、読んでいただけないことになりはしないかと存じます。 ちなみに、事務局は、ほぼ1名で会場・システムの手配から諸々の資料や登録データの作成と送付、HP作成、経理まで処理しております。気が行き届かず、至らぬ点が多々あるかと思いますが、妥当なご指摘があれば対応に努めますので、どうか現状にてご了承ください。
開始日の日曜日、アクセスできない時間がありました。仕事の都合などで、その日その時間しか受けられない人はどうするのでしょうか？ 想定が甘いのではないかと思います。システム都合で受験出来なかった場合、払い戻しなどの措置を講ずるべきだと思います。
初日、通信エラーが発生しましたが、試験実施期間の延長（1日）は検討しなかったのでしょうか？
➡ はい。検討いたしましたし、想定範囲内では最悪と言える事故でした。所定の期間内に受験できなかった方からのご連絡は皆無でした。途中で中断した1人の方には個別に状況をヒアリングし、試験期間内に受験していただきました。
オンライン受験の信頼性を懸念されている方もいるようですが、伊検はイタリアの国や文化に興味があり旅行や仕事で使えるようになりたい、と勉強されている方も多く、不正で得るものに価値がないことをわかっている方が大半だと思います。（受験案内のところに書いてあった文言はまさにそうだ！と感じました。） 今回初めてのオンライン受験でした。家でやったのに会場さながらの緊張感があり、特にタイマーのカウントが減っていくさまは緊張を煽り良いプレッシャーになりました。検定の問題は1-2名で作成されているとのこと。想像以上に変化かと思えます。この検定のおかげで数字すら知らなかった自分も少しずつイタリア語が身についています。引き続き頑張って勉強していきます！
➡ とても嬉しいご意見、有難うございます。事務局の運営はほとんど一人でやっておりますが、さすがに試験問題は事務局員が作成しているわけではありません。1ダースほどの超ベテラン教授陣（全員ネイティブです）のうち半数ほどが毎回交代して作問しており、日本人を含む5-6名の検証委員が内容を確認・修正して出題しています。
地方都市に住むものとして、iBT開催は非常にありがたいです。級が上がれば面接が課されますし、信頼性を損なうことは一切ないと考えます。そもそもカンニングをしても本人に得はありませんし、心ある教職員や採用担当者は見抜くことができます。あるいは、見抜くことができればそれまでです。そういった一部の方を排除しようとするれば、コストはリターンに見合わぬほど大きくなることでしょう。それによってこの検定の開催が危ぶまれることは最大の損失です。むしろオンラインのメリットは大きく、上にも述べた地方都市受験者の件はもちろんのこと、リスニング試験においては座席や会場による有利不利がないことや、受験のタイミングを受験者のスケジュールに合わせやすいことなどが挙げられます。ちなみに私は育児休業中ですが、妻から3時間のお暇をもらって快活クラブ（いわゆる漫画喫茶）の鍵付き個室にて受験しました。オンライン環境は自宅マンションのWi-Fiよりも確実に安定しており、尚且つ集中して受験ができますので他の方々にもおすすめで。次回は3級に挑戦したいところです。余談ですが、Twitterの問題形式の投稿が好きです。もっとツイート期待しています。
➡ 仰る通り、不正防止対策にはコストという大きな壁があります。オンライン検定は皆さんの「相互信頼」を大前提として実施しております。不正を防止するにはテストセンターで受験していただくCBT方式もありますが、事前に予約し、センターに出向いていただく必要があります。また、イヤホン・ヘッドホンなど（使い捨てです）を事前にセンターに送付しておく必要があります（衛生的な観点からも、テストセンターにはイヤホン・ヘッドホンは用意されていません）。センター使用料（1時間平均3,000円です）や機材の手配、予約管理をするコストが追加されます。また、AI（と称されるもの）を利用した、カメラで不審な動作を監視する方式もありますが、そうしたシステムの使用料は1時間あたり7,000円前後が相場となっています（監視システムだけです）。手元まで監視するには広角Webカメラが必要ですので、事前にレンタル・発送し、受験者の方々にセットアップを依頼し、試験終了後に回収する必要があります。コストはいかほどになるでしょうか。加えて監視員の事前手配とその人件費も発生します。オンラインで不正対策を完備しようすると、5級でも受験料は軽く1万円を超えるでしょう。年間予算が数百億円という大規模検定であれば量産効果が期待できるかも知れませんが、当検定では残念ながら不可能なことです。これからもこの方式にご理解下さいようお願いいたします。
メリット:隣の人がいらないから集中して問題が聞けた。正直カンニングをして合格しても、本人が取得したあと自分で勉強しなければ苦労するだけの話なので、特に問題はないと思う。受験期間が一週間あるのもありがたい。私は午後からの方が頭が回るので、朝早く起きて受験会場まで向かう必要性がなく良い。否定的な意見をよく目にするが、日本人は英語以外自主的に勉強しなければ検定を受験する人数も少ないし、経営難でイタリア語検定自体がなくなるのならばカンニングがあるなしに問わず受験者が増えるのなら良いと思う。秋が会場実施のみなら受験を見おくると思う デメリット:長文やリスニングのメモをパソコンにも打てるようにしてほしい。いちいち画面から目を離して絵と見比べたりするのが面倒。
➡ 実際問題として、カンニングしていると時間切れになってしまうと思われます（笑）。パソコンでメモできるようにシステムを改修することはできませんが、「問9」に述べた「裏技」が可能かも知れません。書き込む時間があれば、のお話ですが。

思ったよりスムーズに済みました。iBTなので完全なカンニング対策はしきれないと思います。カンニングしたところで何のためにもならないので、このままの形式で十分ではと思いました。
身体の具合が良くなく長時間の外出が出来ないため、オンラインで受けられてよかったです。ありがとうございました。
イタリア語検定試験は、自身のイタリア語の能力や理解力がどれくらいなのか推し測る指標となっており、学ぶ喜びを実感できる貴重な機会となっております。
個人的にはPCは普通に使えるのと、自分の都合、リズムで受験できるのでとても良い。
生活のあらゆる分野においてもそうですが、対面、オンラインいずれでも可能であることはとても大事なことだと思います。この度はオンライン試験を設けてくださり、ありがとうございました。オンライン受験は初めてでしたが、円滑に解答できました。 2つの選択肢を揃えておくことでニューノーマルの世の中に対応できるのだと思いますので、今後とも、宜しく願いいたします。運営の皆様のご尽力に感謝申し上げます。
検定合格を一つの目標として、イタリア語の勉強に励んでおります。この先も、検定を受験する予定ですので、よろしくお願いいたします。
受験会場に出向く手間がなく楽でした。
力試しに、と、実力より上と思われる級を思いきって受験しました。そのため、「後で見直す」ボタンをチェックしたのにほとんど見直せないぐらいに時間がぎりぎりでした。不正行為については、もともと実力がある人は解答に自信があるので不正行為の必要はなく、私のように実力の足りない者は問題の読解自体に時間がかかり、すらすらとは解けないので、解答時間はぎりぎり、不正をする時間的余裕はない、というのが、受験した感想です。
試験会場から遠方に住んでいるためオンラインでの試験は自分にとってはありがたいチャンスでした。可否に関わらず試験に向けて集中した時間を大切に思います。これからもイタリア語の勉強は続けていくつもりです。ホームページの方もちょこちょこ見に行きますね。
カンニング云々の話が出ていますが、試験時間中はそんな悠長なことをしている時間はないと感じました。それぞれの設問に真摯に向かい合わなければ、確実に時間切れですし、実力のある方は、カンニングしなくても受かりますので。
オンライン受験も現地会場受験もそれぞれ善し悪しがあるので、今のままどちらも行うのが丁度良いと個人的には思います。
今後もイタリア語検定を受験するつもりですので、どうぞよろしくお願い致します。
オンライン受験のシステムを作っていただいております。ありがとうございます。
イタリア語学習のきっかけづくりとして初めて受験しましたが、とても勉強になり良かったです。ありがとうございました。
➡ もともとオンライン試験に批判的な方は受験なさらなかったでしょうから、肯定的な感想が多いのは当然ではありますが、運営担当者の励みになるコメントを数多くいただけて嬉しい限りです。

できる限り皆さまの声をそのままお伝えしたかったので長大な内容となってしまいましたがお許しください。

現時点では克服できない技術的・資金的課題や運用上の問題があるため、「不可能です。無理です」という回答が多くなったことを心苦しく思います。できる限り丁寧にご説明したつもりですが、至らぬ部分がありましたらご容赦ください。ご理解いただけることを願っております。

貴重なご意見の数々に改めて御礼申し上げますとともに、建設的なご意見や、ごもっともなご指摘については改善し、次回に反映させていただきたいと考えております。

イタリア語検定協会
事務局